

百五万県民のふるさと紀伊半島に、希望と躍動の新しいらい  
明を告げる開県第二世紀二年目の春がやってきました。  
みなさんのご家庭、それに決意も新たに、明るい希望にみ  
ちた生活設計をたてておられることででしょう。  
同時に県もまた、新しい年、新しい時代の県政伸展に、いつ  
そうの意欲をもって取り組もうとしています。  
そこでことしも、三人の方々に大橋知事を聞くで、これから  
ました。

**紀伊半島の**

## 第一のれい明期をひらく年

調和と個性のある県づくりを進めます



(出席者 写真(上)の順に 敬称略)

宮脇みち子 (和歌山市連合青年団副団長)

大橋正雄 (和歌山県知事)  
(主婦)

西村敬子



### 紀勢新幹線や8の字路線を 改進論に乗るべきは積極的に乗つて:

司会 知事さん、まず、ことしの県政の

課題といつたよななものからおうかがい  
したいと思います。

ことは、和歌山県のこれから  
改造計画を、日本列島改進論に乗るべき  
は積極的に乗つていくという考え方のな  
かで、大いにすすめていきたい。土地利  
用計画とか、公害のない、また公害を防  
止し得る企業の誘致、交通体系の整備を  
具現化したいと思います。

同時に、ポスト国体の課題である福祉  
健康、スポーツと文化の和歌山県づくり  
を積極的に、具体的にすすめていきたい  
と思っています。

司会 住みよい環境づくり、福祉優先、  
道路整備ということだと思いますが、阪  
部さん。和歌山県民の一人として知事さ  
んにうかがいたいことは。  
阪部 郷土づくり、郷土の繁栄发展は、  
まず、道路、交通だと思います。和歌山  
県を表玄関に出すためには、紀勢新幹線  
が第一かと思うんです。それに、県内の  
8の字路線とか、そのつなぎの道路  
の整備だと思いますが、知事さんそれを  
ひとつ。 知事 そうですね。なんといっても道路  
の整備だと思います。和歌山県民の一人として  
知事 うかがいたいことは。  
阪部 郷土づくり、郷土の繁栄发展は、  
まず、道路、交通だと思います。和歌山  
県を表玄関に出すためには、紀勢新幹線  
が第一かと思うんです。それに、県内の  
8の字路線とか、そのつなぎの道路  
の整備だと思いますが、知事さんそれを  
ひとつ。 知事 そうですね。なんといっても道路  
の整備だと思います。和歌山県民の一人として  
知事 うかがいたいことは。

それから港湾ですよ。和歌山下津港、  
日高港、田辺港……新宮港はいま建設し  
ていますが産業的な意味でも、フェリー  
ポートを使って交通体系としての港湾と  
していく。これにつながる「8の字ルート」とか、さらにそれにつながる生活圈  
とか力を入れていきます。  
（結局、福祉でも教育でも道路が基盤で  
かで力を入れていきます。  
それとも、ことしも積極的に力を入れてい  
きたいと思いますね。（二面につづく）

## 自分たちの問題なんですね…

### 生きがいのある生活を老人に

#### 福祉を日常生活の中へ

宮脇 福祉なんですが、いま、老人問題が大きな問題になつてゐると思うんです。

私たち青年団では、自分たちがすんでお年寄りのお宅を訪問したりして、お年寄りの話を相手になるということで、お年寄りの話を聞くことが多いと日常生活のなかに取り入れていきたいですね。

知事 それはいいことです。県でも、老人の家庭を訪問したり、お医者さんの訪問



制度をつくつたり、介護人制度というものがあるんですが、やはり、青年団とか若い人が率先して、自主的にそういうことをやつていただくのは大変ありがたいことだと思います。

そういうふんない気のなかで、行政的な福祉政策と一般の方、県民の方々の暖かい理解と、福祉といつものがまつとうできると思います。

司会 西村さん、毎年、和歌山県では十一月十五日を愛の日としているそうですが、西村 私たちは、いつも愛の心を持っていなければいけないと思うのですが、どうしても自分たちのことに追われて、そういうことがなおりになつてしまっています。だか

ら、年に一度とか、月に一度とかの行事を行ない、お祭り騒ぎではなく、みんなアピールするというのはよいことだと思います。

知事 そうですね。お年寄りの問題もい

す。それはわれわれの問題になるのですし、母子家庭の問題にしてもわれわれがいつ交通事故故でどうなるかわからないし、精神薄弱の子どもや孫がいつ生まれるかもわからない。

他人の問題ではないわけですね。自分の問題なんですね。だから、みんなが不しあわせな方々の問題を、自分たちの問題として考えていくということが大事ですね。

また、そういう考え方で行政をすすめています。

司会 愛の日も、もう六年目を迎えようとしているそうですね。そこで、阪部さん。

具体的に老人に生きがいをとすることについて、ご意見がござりますか。

阪部 私、いつも思つていてのことですが、六十五歳という老人といえるかどうかわからないような人を、老人ホームに入れてしまってことよりも、もう少し開放した老人のための工場なんかをつくつていただき、仕事のできる人は仕事をしていただこう。また、仕事の斡旋を授産所あたりをつくりまして県が指導し、たとえば、孫が来てもこすかいをやつて喜ぶ顔がみられるというような環境をつくつていただきたいと思つてます。県もよく考えていただきたいと思います。

知事 私は、長生きする人が人間の大きなしあわせだと思想しますが、ただ長生きするというのではなく、生きがいを感じながら暮らせることだと思いますね。老人年金の問題、老人医療の無料化の問題なども、お年寄りが肩身のせまい思いをして生きてい

くということのないように、国、県の行政

方があるわけです。そういう方々の就職の斡旋をする老人の職業紹介というのは、もうすでに県でもつくりていますが、そういう活動も一層活発にしていきます。しかしながら、まだまだ仕事のできる年寄りが、お年寄りにむいた仕事をやっていく。あるいは、老人菜園というものをつくり、そこで花や野菜をつくるというようなことをやつていきたい。

また、お年寄りでまだ仕事のできる方がいるわけです。そういう方々の就職の斡旋をする老人の職業紹介というのは、もうすでに県でもつくりていますが、そういう活動も一層活発にしていきます。しかしながら、まだまだ仕事のできる年寄りが、お年寄りにむいた仕事をやっていく。あるいは、老人菜園といいうものをつくり、そこで花や野菜をつくるというようなことをやつていきたい。

知事 なんかこう、静的に余生をおくるというのではなくて、動的に、積極的に余生をおこうという、老人生活を楽しんで生

きて、そこにいけばお年寄りもいろんなことができるという、建設的というか、もっと前をむいた老人ホームがあればいいなと思います。また、これからもそのようなことでよいアイデアがあれば、どしどし取り入れて考えていただきたいと思っています。

西村 それを行うがつて心づよい気がいた

## 美しい環境づくりは…

#### 新県民運動を定着させて

司会 もう一つ大きな課題である健康で明るく住みよい環境づくりということですが

これはみなさん非常にご意見があるかと思

います。西村さん、主婦の立場から、いま

の和歌山県をごらんになつてどう思われますか。

西村 國体のとき、非常に県民運動が盛りあがつて、環境がきれいになつたと思う

です。それが一年たちましたら、みなさん少しずつ忘れて、せっかくつくった花壇の花も前ほど満開というわけにはいかなくな

りました。それでみんなが、私一人ががんばつてもしかたがないと思わないで、せめ

て私だけでもがんばりましょうと思って、身近なできるところからでもきれいにして

いくと、もっときれいな和歌山になると思

うのですが。

司会 一人ぐらいではという気持が、その

さまたげになるということですね。

知事 たしかに、外國にいっても公園とか

街路樹とか、花とかをみんな大事にして

いる。日本人は、家のものは大事にするが

公共のものはしらん顔をするという傾向が

あります。もちろん、行政の面でやらねばいけ

ばつてもしかたがないと思わないで、せめ

て私だけでもがんばりましょうと思って、身近なできるところからでもきれいにして

いくと、もっときれいな和歌山になると思

うのですが。

司会 その点、宮脇さんなんかは、青年団活動で県内をまわることが多いと思いますが、いかがですか。

宮脇 ハイキングなどにいきましても、登

る途中はゴミなども自立たないんですが、頂上へあがつてさあ弁当を食べようと思うと、まわりがゴミだらけなんですね。だれがこんなふうにするのかというと、さつきも西村さんがおつしやつたように、私一人だけはと思つて心の積み重ねが、その大きなゴミの山になつてゐると思います。そういうことをよく感じます。

ほくらも、わたしも、花いっぱい

## あかるい生活を優先 に立った納得のゆく県政を



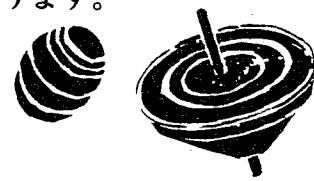
議長　岡渡八鈴下島福松鍋浦  
副議長　中妙  
議員　本木辺田木木西木木本本島  
正一　嘉俊　舜正　保三  
雄一郎　義正　男勲一　保三

## 謹賀新年

県民福祉の向上と明るく豊かな郷土づくりのため、より一層の努力を傾注してまいります。

昭和四十八年元旦

和歌山県議会



岡山山中塙前松馬山森中土矢西窓大古藁浜町坂野下崎本有幹柳茂坂治重計利哲実三郎雄一郎造吉郎  
岡田本江条田科野林橋野田林川場村肥崎中頭田本本坂野下崎本有幹柳茂坂治重計利哲実三郎雄一郎造吉郎  
辰義敏新義史栄憲忠喜鹿五英郎一重英郎夫敏雄一郎雄一郎造吉郎  
久五郎男友収一力藏清勇郎一重英郎夫敏雄一郎雄一郎造吉郎  
隼一郎

(議員の順序は、県議会議員名簿による。)

# ゆたかな福祉 105万県民の立場

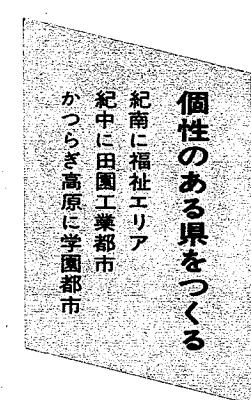


## 生活環境と経済発展との 調和を見いだす—それが政治の使命！

### 和歌山県を表玄関に

阪部 知事さん、産業公害のことですが、和歌山県も発展いたしまして多くの企業が存在しています。企業というものは国際競争に勝つため各種の設備をし、生産活動をしなければいけない。そういうところから大なり小なり公害というものが出来て、いるような気もします。産業と住民福祉の調和、これはなかなかむずかしいことだと私は思うのですが、そういう点いかがですか。

知事 私はいつもいっているのですが、日本人は極端から極端に走るのですね。経済成長といえば生活環境を無視して走っていく、生活環境といえば企業なんかどうかてもいいのだ、経済はどうでもいいんだといふような極端から極端へ走る傾向がある。そのなかで、政治というものは調和を見いだしていくことだと思います。だから、時代の流れによって、経済に重点を置いて生活環境との調和をはからねばならない時代、さらに生活環境に重点を置いて経済との調和をはからねばならない時代、やはり調和を見いだしていくことがむずか



西村 個性のある町づくりということから、時代の流れによって、経済に重点を置いて生活環境との調和をはからねばならない時代、さらに生活環境に重点を置いて経済との調和をはからねばならない時代、やはり調和を見いだしていくことがむずか

「新しい年・和歌山県政の課題」  
四国テレビ 1月2日 9:30~10:00  
毎日テレビ 1月6日 15:30~16:00

紀州アルバム「新しい年・和歌山県政の話題」  
四国テレビ 1月7日・14日 7:45~8:00  
毎日テレビ 1月12日 8:00~8:15

出席者：県議会議長 妙中正一  
県議会議員 鈴木俊男  
〃 馬頭哲弥  
〃 森 利一  
〃 柳野九爾明

「伸びゆく県政」  
和歌山放送 1月1日 16:20~16:50

「知事に聞く」 (放送日時は予定)  
NHK総合テレビ 1月4日 17:40~17:55

■この座談会は、新春テレビ特別番組（四日テレ）二月二日午前九時三十分から、毎日テレ二月六日午後二時三十分から放送）の内容を紙上掲載したもの。



ね。せまい日本の中で住宅と工場が隣りどおり、背中合わせであるというところに日本の公害問題の深刻さもあると思うのです。いまおしゃったように、計画的な工業団地づくりを考えていきたいと思います。西村さん、いまの個性のある町づくりというのは、具体的に例をあげていただくとどういうことですか。

西村 たとえば、倉敷に行くと美術館の一帯が車も規制されて、騒音もなしに美術鑑賞することができます。また、商店とか食べもの屋さんも町によく合うような建設のしかたがされています。和歌山は同じような感じの町並みが続き、あまり個性がないよくな気がします。せっかく城下町のように歴史を持っているのですから、これからはこういうことも考えて、和歌山も、もっとよい町になると思っています。

西村 これは市町村の行政との関係もありますが、なかなか参考になるお話ですね。

司会 知事さん、結局は県民みんなが参考した郷土づくりに取りかかるなければいけないということでしょうかね。

知事 私はいまの個性のある町づくりといふお話を大変感銘しました。地方自治の本当の本質は個性のある市町村をつくる、個性のある県をつくることだと思います。

西村 たとえば、紀南の福祉エリアをつくるとか、紀中に田園工業都市をつくるとか、あるいは、かつらぎ高原を学園都市にするとか、橋本市周辺にニュータウンができるとか、それから和歌山市周辺に大きな流通センターができるとか、そういう県独自で考へるべき構想は、中央のみよることなしに県独自ですすめていきたいと思います。

西村 みんなで新しいものをつくっていこうという気持ちが必要になってくるわけですね。

知事 私は、ナマの声を聞くといふのは大切なことだと思いますし、そういう心がけられたときも十分に配慮しながらいかねばならないと思います。

司会 時間もなくなつてしまりましたが、最後にことしの抱負を。

阪部 ういうことからも、県民のナマの声をよく聞いてやつてほしいと思います。私は、ナマの声を聞くといふのは大切なことだと思いますし、そういう心がけられたときも十分に配慮しながらいかねばならないと思います。

知事 これから紀州の、いまのお話しの言葉をかりれば、個性のある土地利用計画、地帯別のいろいろな構想を具体化しつつ、その建設にかかるといふ年だと思います。また、ポスト国体でかけている福祉の健康、スポーツと文化の和歌山、そして、私がいつもいっている経済と文化と福祉の調和のとれた和歌山県の建設を積極的におこなうことをめざしていきたいと思います。

